

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000422		
法人名	医療法人山仁会山口整形外科		
事業所名	グループホーム メゾン・なでしこ		
所在地	宮崎県児湯郡高鍋町大字北高鍋3225番地		
自己評価作成日	平成22年6月28日	評価結果市町村受理日	平成22年9月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4572000422&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成22年7月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療連携体制を取っており、急変時等は併設の医師が24時間対応でき、医療面が充実している。また、ホームでの入浴が困難な方は、法人内の特浴を利用している。毎月の全体会議を研修の場とし、外部研修の報告や自助努力で感染・接遇・抑制等、常に研鑽を重ねている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護老人保健施設や通所事業所とともに整形外科病院に併設され、国道や田園が近く、木立に囲まれた庭に花壇や菜園と木造のホームが静かな風情を醸している。ベランダ付きの居室の造りも個性的で、落ち着ける雰囲気のある場所となっている。施設長や職員は、利用者が「ゆっくり、楽しく、一緒に」の理念にあるように過してほしいと、併設施設と協力し、合同の年間行事や研修などに参加し、ケアの質の向上にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 家族会で職員が席を外す試みをさせてみる 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり 楽しく 一緒に」を理念にその人らしく暮らし続けていけるよう、運営会議で話し合い全職員でサービス向上に努めている。	理念は全職員で話し合い作成し、利用者に寄り添ったケアに努めている。また、法人全体で接遇強化月間を設け、県内・外研修に職員参加を計画している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ひな祭り、七夕、夏祭りなどのホームの行事に地域の方を招待している。また、月に数回近所の方がお花を届けに来ている。	同法人の施設と合同で文化祭に作品を出品したり、町の美術館にも展示するなど、散歩や買い物以外に地域住民との触れ合う機会を持つように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の老健にて介護教室を開催し、職員も参加している。 町よりの委託事業として、地域高等学校の実習校の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、入居者様の状況、行事、外部評価への取り組み等、積極的な意見交換がされている。出された意見を運営推進会議で報告し、サービス向上に取り組んでいる。	地域の民生委員、町役場職員、家族代表等の参加で定期的実施し、ホームの行事や防災対策等の理解を深め、貴重な意見は運営に生かすようにしている。現在は、口蹄疫のため今年度は開催されていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に町担当者に出席してもらう。また、日常的に実情報告・相談を行う。生活保護を受けている入居者様の相談は、福祉事務所に行き、協力を仰いでいる。	町の担当者にホームの報告や相談を行っている。今年度中に同法人が別の場所にグループホームを立ち上げることになり、日ごろの相談等以外に担当者と連絡を密にする機会が増えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッドからの転落及び転倒の危険性がある方にセンサーマットを使用。又、必要な方には足元に柵を使用している。毎月の抑制廃止委員会で医師を交え協議している。玄関のロックは、9時から17時はできる限りかけない様に努めている。	身体拘束について、転倒防止のための方策は、家族と主治医の了解を得て行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はあり得ないが、見過ごす事がないように、職員間で注意を払い防止に努めている。月1回の全体会議で、法令遵守、接遇の研修を行い、虐待、言葉かけを主とした関係法を学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内にポスターを掲示しているが、活用に至る事例がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分説明を行い疑問点を尋ね納得後に、署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議に家族の代表が出席し、家族の意見が反映できる体制ができている。入居者様の意見・不満は、担当職員とゆっくり話し合う場を設けている。 年に1回家族向けにアンケートを行っている。	家族来訪時に意見を聞く以外に、年1回家族会を開き、意見交換を行っている。出された意見は運営に反映させている。	家族会で職員が席を外す試みをされてみることも検討してほしい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議では、経営者と職員が参加し、現状報告・意見交換を行っている。また、法人内の会議も毎月行われており、情報・意見交換の場となっている。	運営者は、毎月の運営会議や運営推進会議でホームの現状を理解し、職員の書類等にも目を通し、意見交換も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有休や希望休を取りやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加し、個人で得た知識を他職員に報告している。又、資格を取得する事で、モチベーションを高めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修に参加し、他事業所との情報交換も行い、得た情報を全職員に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家族や本人にホーム内の雰囲気等を見て頂いている。また、必要な時には、入居前に訪問して家族・本人と話し、状態の把握を行っている。なじみの関係が早く築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に見学に来て頂き、家族と話し合う場を設け、入居後スムーズに処遇出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	かかりつけ医の情報や本人・家族からの情報を踏まえ、その時、その日に必要なサービスを検討し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意な仕事を手伝って頂き、職員から感謝の言葉を添え心の満足を得られる様にしている。入居者と職員の関係だけでなく、「ゆっくり 楽しく 一緒に」の理念のもと生活を共にするケアを提供している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態を報告し、把握して頂いている。職員では対応困難な時には、家族の協力を得ている。その中で、本人・家族・職員が共に支え、協力し、幸せな時間を過ごせる様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来て頂いたり、手紙を書いている。ドライブや散歩等で、なじみの場所、思い出の場所に行っている。また、家族にも協力して頂いている。	家族が近所の人を連れてきたり、行きつけの美容室に家族と出かけている。また、職員がドライブ時に家族に会いに家に寄ったり、電話をしたり、なじみの人との関係を大事にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様のそれぞれの個性を理解した上で、助け合い支え合っている。相性の合いにくい人との人間関係に苦慮する時もあるが、職員が間に入り孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人の状況・ケア等について書面や電話連絡を行っている。 退居先に面会に行ったり、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望を把握し、支援に努めている。家族の協力を得ながら、できる限り伝えられるように努めている。	利用者を担当する職員が、日常のケアをする中で利用者から話を聞いたり、家族の来訪時や介護計画作成時に面談して希望や、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの情報をもとに、把握に努めている。また、生活の中での新たな発見もあり、常に気づきの視点に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態・残存機能・これまでの生活習慣や生活歴等を把握し、支援に努めている。 申し送りノートに一人ひとりの様子を毎日記録し、全職員で把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見・希望を取り入れている。計画作成担当者と担当職員を中心に話し合い、介護計画を作成している。	毎月の全職員による運営会議において、ケアチェックシートや介護計画の目標の経過を基に毎月評価を行い、2か月ごとに計画の見直しをしている。	状態に変化があったときは、一目で分かるような記載方法を考慮してほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや介護計画に添ったケアチェックシートの記録を行い、毎月の会議で話し合っている。必要時は、計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内のクラブ活動や行事の参加、希望に応じたりハビリと幅広く対応している。 家族の状況に応じて病院受診なども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防機関へ防災訓練の要請を行い、年2回の防災訓練を実施している。 法人内で地域高等学校の実習を行っているため、学生との交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医を入居後も継続し、月1回家族付添いによる受診を依頼している。 受診時には、かかりつけ医に情報提供書にて状態を報告している。突発的な疾病時にも家族に連絡し、受診を依頼している。	利用者一人ひとりにかかりつけ医がおり、受診は家族が行っている。同行できない場合には職員が対応し、情報を提供するとともに、医療機関からの情報も受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りノートに記録したり、すぐに報告・相談している。 看護師が医療管理・内服管理を行い、家族・介護職員と連携し、安全に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院について、かかりつけ医と情報交換を行い、本人・家族と治療計画を話し合っている。 かかりつけ医の医師と情報提供書や電話で情報交換を行い、関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・法人医師・職員と話し合い、また、かかりつけ医にも相談し、方針を共有している。 緊急時の家族の希望を事前に書いて頂いている。	本人、家族に対し、緊急時や重度化した場合の意思確認書を作成し、事業所が対応できるケアについて説明を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練にAEDの取り扱い方法や日常的に吸引器等、「必要に応じて訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防機関へ防災訓練の要請を行い、年2回日中想定と夜間想定で防災訓練を行い、法人内の職員と協力体制を築いている。 災害時に備え、2日分の食料を準備している。	防災マニュアル、備蓄品、避難訓練など災害に備え全職員が意識づけできるようにしている。また、最近、スプリンクラーの設置も完了している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、意見を否定せず受容する接し方を行っている。接遇委員会による研修を取り入れ、日常的に全職員が確認し合い、プライバシーの確保に法人全体で取り組んでいる。	重点目標に接遇強化月間として法人内研修で、「利用者の立場になった時あなたがされたくない介護」等プライバシーの保護に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや、希望が表せるような声かけ、雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	危険のない範囲でマイペースに過ごせる様に支援している。 希望があれば、できる限り添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人好みの身だしなみを心がけている。本人と買い物に行き、好きな服や小物を購入している。また、毎月ホームに美容師の散髪日を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の献立に好みのメニューを取り入れ、味付け等一緒に行ったり、手順を教えるもらったりしている。 テーブル拭き、料理のつぎ分け、下膳などの手伝いを行ってもらっている。	テーブルを気の合う者同士、介助の必要な人などに気を配り、庭を眺められるように配置しており、職員も一緒に利用者に話しかけながらゆっくり、楽しく食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じ、糖分を抑えた飲み物や食事を調整している。入居者様に合った盛り付けを行い、定期的に法人内の栄養士に献立のチェックを依頼し、アドバイスをもらっている。1日の水分摂取確保の為、スポーツドリンクや好みのジュースを取り入れ、嚥下の状態に合わせてロミも使用し、水分量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、介助を要する入居者様には介助を行っている。 週1回義歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレへの声かけを行い、日中は、最小限のパットを使用している。できる限りおむつカバーを使用せず布パンツで対応している。	一人ひとりの排泄パターンに沿って声かけを行い、多くの利用者が日中はパットと布パンツで過せるようになっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認を毎日行っている。 水分摂取を常に促し、ヨーグルトや食物繊維の多い食材を取り入れている。 レクや散歩・生活リハビリを通じて運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在入浴日を固定しているが、希望があれば可能な限り実施している。 ゆっくりと入浴を楽しめるように一人ひとりのペースに合わせた入浴を行っている。	入浴日は週3回と決めているが、入浴する順番など本人の希望に沿って、ゆっくり楽しめるよう支援を行うとともに、車椅子の人は法人施設の特殊浴槽で、安心してゆっくり入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースや体調に合わせて1日を通し、休息をとっている。 夜間気持ち良く安眠できるように、日中の活動を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をカルテに挟んで、把握に努めている。フローアに説明書を貼り、確認後与薬している。副作用が心配な方、他症状等に注意が必要な方は、看護師から注意事項として受ける。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔得意としていた事や習慣等を大切にしている。日常生活の中で役割を見つけ、張り合いに繋げている。 現在お酒やタバコを好む方はないが、お菓子を楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩等希望にそって、その日に支援し、買い物や外食は、できる限り希望にそえるように支援している。また、家族の協力を得て、遠出や墓参りに出掛けている。	同法人の行事等に参加するほか、庭の花壇や菜園の草取り、野菜の収穫をしたり、また、散歩や買い物、ドライブなど戸外に出かけられるように家族と協力しながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が管理しているが、買い物時には、支払いを一緒に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をすることは難しいが、希望者には対応している。外部からの電話は、個人情報保護に配慮し取り次いでいる。手紙を書く入居者様への手伝いを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファー・本棚等を置いて、家庭的で居心地の良い雰囲気を作っている。 テーブルに季節の花を生けたり、四季や行事に合った飾り付けを行っている。 刺激にも配慮し、カーテン、ブラインド等を活用している。	利用者が日中過ごす食堂兼リビングは広く風通しがよく、大きなソファーや壁際の腰掛け等が自由にくつろげる場となっている。廊下は高窓からの陽射しで明るく、壁に飾っている絵や写真が心を癒してくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーを設置し、1人で過ごしたり、入居者様同士で過ごせる場所となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で利用していた洋服掛けや、毛布・枕等使い慣れた物を活用している。 思い出の写真等も貼り、一人ひとりに合った居室づくりに努めている。	各居室には、それぞれ異なるデザインの木製のダンスといすが置かれ、家族の写真や使い慣れた物を配置し、落ち着いた雰囲気と安心して過ごせるよう工夫がされている。また、ベランダには自宅から観葉植物などが持ち込まれ、居心地のよい空間の配慮が見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの出入り口は、ピンクや青色に区別している。		